

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075500472		
法人名	有限会社木蓮		
事業所名	グループホーム木蓮の家		
所在地	福岡県宮若市長井鶴263-7		
自己評価作成日	令和5年7月25日	評価結果確定日	令和5年9月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリズン
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和5年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成16年にグループホームを開設して20年目に入る。平成20年5月より共用型通所を開設して、15年目を迎えた。通所から入所へと利用者の不安を配慮したサービスを提供している。リーダー研修会や認知症指導者も受講する等して、認知症の人の研修体制を整えている。併設ではないが近隣に24時間体制の医療機関があるので安心して過ごしていただける。主治医の指示書で、訪問看護や訪問入浴、訪問リハビリを活用している。平成28年より地域包括支援センター委託で認知症カフェ開催やボランティアも受け入れている。若年性認知症の人と1回、福岡のクローバプラザでボランティアの人と一緒に料理を作って食べる活動に参加している。ホームに仏壇があり、月に一回住職が月参りに来られる。福岡県グループホーム協議会と宮若市グループホーム協議会に加入して、情報交換をしている。コロナ禍はzoomで研修に参加している。介護日誌はアイパットを活用している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を具現化するために、研修で知識とスキル向上を図り、ミーティングで課題を話し合い、提案事項はまずは実行している。主治医から馴染みの家庭的な環境での終末期を勧められ、家族の希望もあり、主治医とラインでバイタルなどを共有し、付き添った家族の容態の変化に動揺する言動を受け止めながら、7月に初めて看取りをしている。職員の看取りへの思いの変化もあり貴重な経験をしたと振り返り、その体験から重度の共用型通所介護利用者を受け入れている。クラスター発生時は、地域同業者から感染予防グッズ提供の声かけがあったり、運営推進会議で報告した収束までの詳細な経緯や写真によるゾーニング対応に、参加者から慰労の言葉が寄せられている。大雨の折は地区公民館避難の呼びかけが恒例となり、18年も前に退去された方の家族から栗や筍の差し入れが継続するなど、家族や地域から篤い信頼を得て、我が家のような居心地の良い場所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホーム木蓮の家**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングや勉強会でスタッフ全員で理念の意味を理解して実践している。利用者様や家族が我が家のような居心地の良い場所と安心できるくらしが提供できるように務めている。	理念を具現化するために、研修で知識とスキル向上を図り、ミーティングで課題を話し合い、提案事項はまずは実行している。近隣のかかりつけ医がコーヒーを飲みたいとぶらりと来所されるなど、心地良い場所となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商工会や青年団によるお神輿行事に参加している。いつもは、炊き出しをして、食事を提供しているが、新型コロナ感染防止対策として、今年は玄関先でスタッフのみ打ち込みだけで対応した。包括委託で認知症カフェを開催している。	区割りが複雑で自治会の加入はないが、大雨の折は地区公民館避難の呼びかけが恒例となり、運営推進会議には民生委員3名の参加がある。18年も前に退去された方の家族から、栗や筍の差し入れが継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを月に2回開催し、地域の人々の認知症への理解、相談にのる等、支援に繋げている。施設では、まだコロナ対策にも十分に気を付けながら、取り組んでいる。宮若市委託のボランティアを入居者の話し相手として受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、会議での意見をサービス向上に活かしている。コロナ禍では資料を紙面にして送付、意見を頂いている。	全家族に開催を案内している運営推進会議の内容は、毎月其々暮らしぶり報告書や家族来訪時に報告し、会議録は玄関で公表している。クラスター収束の経緯や写真によるゾーニング対応の報告は、委員から慰労の言葉が寄せられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の空き状況の確認や運営推進会議の報告、認知症カフェ等で事業所の実情や取組みを積極的に伝えている。若年性認知症の人の関わりは、認知症の人との交流会に参加して、対応などについて積極的に取り組んでいる。	市の委託で月2回開催している認知症カフェはオレンジカフェ木蓮の家と名付け、予約制のフットケアは心地良いと好評である。市の案内で他市開催の認知症カフェ研修に管理者が参加するなど、協力や連携に務めている。	認知症カフェの開催を足がかりとして、名称の工夫や場の確保で何時でも誰でも集える場を作りたいとの管理者の構想が実現することを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者、スタッフ全員で月一のミーティングや勉強会で身体拘束をしないケアについて話し合い、実践に取り組んでいる。運営推進会議時に2か月に一回身体拘束委員会を設置して、開催している。常日頃より身体拘束をしないケアに意識をしながら対応することに務めている。	2ヶ月毎の身体拘束適正化委員会や月1回のミーティングで身体拘束のないケアに取り組んでいる。かけ声の大きさに配慮し、「〇〇だから待つ」と納得できる声かけを励行している。「家に帰りたい」は、引き止めずに同行したり、ドライブで気分転換を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止徹底の認識のため基礎知識の勉強会をホームや外部研修で受け、虐待が見過ごされないように防止に努めている。運営推進会議後2か月に一度、身体拘束委員会も開催している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は職員は、定期的に日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、何時でも活用できるように支援している。パンフレットなどで家族に支援をしている。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関するパンフレットを整備し、内部でオンライン研修を受講している。運営者の次女(職員)が後見人の入居者もある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書で事業所で出来る言、出来ない事を明確に説明している。入居後数年経過した方も途中で不安や疑問を尋ねるように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族には、訪問時に意見や要望などをいつでも出しやすいように雰囲気づくりをすとも、出された意見は、ミーティングで話し合い、運営に反映されている	家族来訪に暮らしぶりを伝え、行事毎に入居者の笑顔満載のホーム便りを発行したり、ライン動画を送信する家族もあり、意見の表出を促している。元家族で運営推進委員の住職から、報告文の表現にアドバイスがあった。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は運営に関する職員の意見や提案をミーティングや個人面談を行い、短時間職員や常勤職員も意見や提案を聞く機会を設け反映させている。短時間職員も研修に参加して職員全体で意見、提案をしている。	毎月のミーティングは活発な意見交換の場となっている。皮膚の剥離防止保護材使用や終末期の方の居室に加湿器の設置、室内で野菜作りができるようにプランターでなどの提案は実行され、行事の衣装や陰部洗浄用専用ポットの購入が実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則を整備している。開設から社労士と契約して職場環境整備に努めている。職員が受講したい研修は積極的に参加してもらい、本人の向上心に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人代表者及び管理者は短時間職員もチームの一員として研修会、会議に参加している。職員の質の確保、向上に向けた育成が出来るように年間計画の中で研修を位置づけている。働きながら、子育てしながらでも働けるように支援している。	看護師や歯科衛生士の資格を持つ職員もあり、30代から70代の女性の職員が夫々の希望のシフトで就労している。タブレットや介護ロボットの導入で業務の効率化に取組み、知識やスキルの向上をと研修参加を推奨し、子育て中の職員には状況に応じた就労を支援するなど、人材の育成や確保に努めている。職員間のコミュニケーションが良好で働きやすく、中には親子で勤務する職員もある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、人権教育、啓発活動として協議会や認知症家族の会の研修参加で人権教育、啓発活動に取り組んでいる。管理者、職員は時々寺の住職から人権学習として研修を受けている。	身体拘束や虐待に関するオンライン研修を受講し、敬語で入居者に対応している。月参りに来訪される運営推進委員である住職から法話を伺うなど、人権教育や啓発活動に取り組んでいる。	職員の人権を尊重するために、職員へのハラスメントやカスタマーハラスメント対策を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は管理者と兼務して、ホーム内全体を把握し、勤務体制を考え職員が働きながら研修に参加できるように配慮をしている。研修費用や参加費を法人負担、勤務時間で研修参加する機会を作っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の同業者と協議会をつくり、今年度より、二ヶ月に一回の開催を予定し、情報交換を行う。また福岡県グループホーム協議会に加入しており、現在はコロナ禍でリモート研修になっている。参加し、サービスの質の向上に務めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者開始時は特に不安に思われることが多いため、常に寄り添い耳を傾けることを大切にしている。安心して過ごせる環境づくりに配慮している。本人様が困っていることや何を希望されているかを聞き取るようにし、支援に繋げている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族の方の思いや状況などを確認し、家族の方が何を希望されているかよく聞き、困っていることや不安などに対してできる事は、すぐ実行、対策を考えるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始時にはケア会議を開催しスタッフ間にて本人の情報及び問題点について共有必要なケアを見極め支援に繋げている。他のサービスが必要であれば、その都度速やかにサービス利用へとつなげている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物を干したりたたんだり、料理の盛り付けや食後の食器洗い等、今までの生活でされていた事をスタッフの声掛けや見守りなどにより続けられるよう支援している。本人様の出来る事を大切に継続できるよう支援している。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況を把握した上で、家族の方と一緒に安心して過ごせる場所や環境を整えるように配慮している。家族間の絆を大切にし、その上でともに本人を中心とした支援に繋げて行くようにしている。家族が気を使わないように気を配りながら、面会に来られた時などに相談できる雰囲気づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの人が面会に来やすいようにな霧囲気づくりをしている。また本人が大切にしている場所へは、スタッフが付き添い送迎介助を行い、訪れる等し、本人の思いを大切にしている。コロナ禍前は、ホームで一緒に食事をしていただくなどして、家庭のような霧囲気づくりに努めている。	3年ぶりに居室で時間や人数の制限した面会をお願いし、家族からの電話を取り次いだり、ズームでの面会を支援するなど、家族との関係継続を支援している。母の日に職員から花束をプレゼントされた結婚歴のない方は、「ここがあるからいいわ」と話す程、ホームが馴染の場所となっている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の方の性格や関係について職員が十分に把握し穏やかに過ごせるようにソファやテーブル、椅子などの位置にも気を配っている。コミュニケーションがとりにくい方には職員が間に入る等の配慮を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても利用者や家族の方がいつでもホームに尋ねて来られる環境を作るとともに、退所されても家族の相談にのり必要に応じてフォローをしている。退所した家族はいつでも笛や栗などをもって来られる。また別の相談をされる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の気持ちを大切に、どの様に日々過ごしたいかを把握するように努めている。困難な場合は表情や動作にも気を配り、家族にも以前の暮らし等聞きながら本人の意思、意向の把握に努めている。	日々の関わりや家族から得た入居前の暮らしなどの情報を全職員で共有し、夫々の思いや意向の把握に努めている。巻きつめの痛みで歩行が容易でないにも関わらず、「家に帰る」と出て行こうとする言動を受け入れ、しばらく一緒に歩いたりドライブで気分を変えている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人及び家族の方にこれまでの暮らしについて聞き取り又は以前もサービス利用状況についても情報の収集に努めアセスメントに記録している。入居の時は必ず情報提供や看護サマリーをもらっている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	令和3年5月から介護日誌をiPadに紙から変更した。ひとりひとりの変化や異変にすぐ気が付くようにバイタル測定や排泄記録を入力、本人の気づきについては、毎日申し送りをして、夜間の報告、日勤の状況をスタッフ全員と把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月又は必要時にモニタリングを行い介護計画の見直しを行っている。計画作成者や他の職員との評価を行い、現状に即した介護計画を作成するとともにその都度現状の把握を行っている。	日々の気づきを共有し、状況に応じて実施したモニタリング結果をミーティングで話し合い、現状に即したケアを実践している。7月逝去された方の看取りでは、入居者の情報を全職員がタブレットで共有し、入居者と家族を一体として支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイル及び健康チェック、介護ケアアプリで記録している。アプリについては主治医も情報共有をしている。情報得た事は介護計画の見直しに繋げ、見直しに活かしている。個人の月間日誌を毎月記録している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人及び家族の状況を把握し必要なケアに気を配っている。主治医の指示書に元づいて、訪問看護訪問入浴等を活用している。必要に応じたの期間や行政等に問い合わせるなどサービスの多様化に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政や他の事業所との交流で地域資源を把握し本人の必要なサービスが利用できるように支援している。訪問看護、訪問入浴等を主治医の指示書で活用している。現在重度化とコロナ禍の時もあり。その時の状況で対応している		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医や希望する医療機関があれば契約時に家族と話し合い、適切な医療が受けられるように支援している。受診時に職員が同行出来ないときは、ご家族にメモをして渡す等、医療機関に分かるように報告している。	全入居者が協力医療機関の訪問診療や訪問歯科診療を受診し、主治医の指示で訪問看護や訪問リハビリなどを受けている。夜勤専従3名を含め、看護師の資格のある職員が複数就労し、良好な医療連携で適切な受診を支援している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携での看護師による往診で日常の関わりでとられた情報や気づきを相談し適切な受診や早期発見に繋げている。訪問看護等に伝えて、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、安心して治療できるようにまたできるだけ早期に退院できるように、病院関係者との関係づくりを行っている。主治医の先生と利用者との情報交換して、ラインで相談をする等日々話しやすい関係づくりに努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携での看護師による往診で日常の関わりでとられた情報や気づきを相談し適切な受診や早期発見に繋げている。主治医と訪問看護の連携で、重度化した利用者の方も適切な受診が受けられている。訪問入浴も活用している。	終末期を告知された主治医は馴染みの家庭的な環境での終末期を勧められ、家族の希望もあり、7月に初めて看取りをしている。主治医とラインでバイタルなどを共有し、訪問看護や訪問入浴と連携しながら、付き添った家族の容態の変化に動揺する言動を受け留めている。看取りへの思いの変化もあり貴重な経験をしたと、全職員で振り返りをしている。	今回の看取りの体験が職員の知識やスキルの向上となり、重度の共用型通所介護利用者を受け入れることができたことを礎に、さらなる重度化や終末期の取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時や事故発生時に備えてのマニュアルを確認しながら、管理者、看護師、スタッフ全員でいつでも対応できるように、実践に取り組んでいる。急変時に備えて、介護ロボット(眠りスキャン)を設置している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で、民生委員の人や自治会の方に協力体制を得ている。職員全員が昼夜を問わず避難できる方法を身に付けている。他のグループホームと連携を取りながら、災害対策の協力をしている。	9月1日消防署が来所し、火災や救急蘇生法の訓練や指導を受けている。地域同業者と協力体制を構築し、クラスター発生時は備品提供の声かけがあった。同業者協議会主催のBCP策定研修会に参加し、現在策定中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の保護の取り決めをしている。一人ひとりの言葉かけについても敬語を基本として本人の分かりやすい言葉かけになるように気を配っている。ミーティング、勉強会等で再確認をしている。	敬語を基本として、「○○さん」と名字で穏やかに呼びかけている。排泄は個々の尊厳に関わる行為であるため、介助時の声かけには配慮することを申し合わせている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が思いを表しやすいような環境づくりをし、職員は常に傾聴の立場をとっている。言葉だけではなく、しぐさや表情等にも気を配っている。本人が自己決定へと繋がる言葉かけをしたり配慮している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや体調に合わせてゆったりとした支援をしている。体操やレクリエーションは声掛けを行うが本人の意思を優先し、希望に沿った過ごし方を支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選択できる方は更衣時に自分の好みの服を選んでいただいている。本人の希望により髪を染めたり、フットケアをしたりおしゃれを楽しませている。入浴後洗面後には化粧水をつけられる等身だしなみの支援をする。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを聞きながら季節感のある献立を職員が考え、出来る方は、野菜の皮むき配膳、盛り付けを一緒に行っている。嫌いな物は、別メニューに変更し、体調の悪い日も献立を考慮している。おぼん拭き台拭きを一緒に行っている。	クラスターの経験から、食事は対面ではなくスクール形式で黙食をお願いしている。プランターで栽培した夏野菜が食卓に上り、パン食や献立の希望を叶え、母の日は目の前で作った鍋料理をふるまうなど、食事を楽しめるように支援している。入居者は其々のペースや介助で、完食している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事摂取量を記録している。嚥下状態の悪い利用者はトロミをつけたり、食材の切り方を工夫している。水分食事困難時は医療機関と相談し、状態に合わせた食事形態にする等対応している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行っている。一人ひとりの口腔状態に合わせ、声掛け見守り、介助やハミンググッドを使用する等の支援を行っている。訪問歯科往診や歯科衛生の助言をいただきながら、口腔内の清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを知り、トイレでの排泄支援を行っている。トイレでの排泄が継続できるように職員と話し合い、声掛けの工夫、介助方法で身体機能低下防止に努め、安全で気持ちよく排泄できるように努めている。	夜間はポータブルトイレの使用もあるが、排泄パターンに応じた声かけや排便コントロールで、トイレでの排泄を支援している。先日逝去された方は、吸収量が多く肌触りが良い特殊なおむつの使用や訪問入浴の利用で、褥瘡がないまま見送っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や食事の工夫、便秘予防に努めている。ホームで出来る適度な運動や腹部マッサージ等便秘の予防をしている。ホームで水素水を使用している。飲むヨーグルト等出来るだけ、食べ物で便秘が解消できるように工夫している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日、バイタルの確認の上、体調に配慮し、入浴の声掛けを行っている。声掛けのタイミングはなるべくその方のタイミングに合わせている。入浴の順番も早めに入りたい方の気持ちも配慮している。	週2回を目途に入浴を支援している。声かけのタイミングを見計らったり、1番風呂の希望に応えるなど、入浴を楽しめるように支援している。歌を歌いながら楽しみながら入浴をする入居者もいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ち良く休めるように気温、明るさ音等に配慮している。フットケアで休息の支援をしている。日中は無理なく体を動かす、ラジオ体操や散歩をする等、気持ちよく眠れるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のカルテを作成し、職員は薬の副作用、用法を理解している。本人にも何の薬かを伝えながら服薬していただいている。服用後の変化にも注意をはらい、体調不良時には、医療機関へ報告し連携を図っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵、トランプ、本や新聞を読まれたり一人ひとりが興味のある物を声かけし取り組んで頂いている。また天候の良い時には散歩や、近くのコンビニにや外食にスタッフと同行し外出で気分転換の支援をしている。コロナ時は控えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やその日の身体状況に応じて、心身の活性化に繋がるように日常的に散歩、ドライブにでかけている。その方の体調状態に配慮し個別の対応を行っている。コロナ禍の時は感染防止の為外出は控え、施設で楽しんで頂けるように、施設内で餃子パーティーを開くなど工夫している。	少人数での外出でうどん屋や寿司屋に出かけたり、入居者家族の店でパフェを楽しんでいる。今年も市内の彼岸花見学に出かける予定である。外出時の排泄援助に苦慮されて同行をお願いされる家族もあり、外出の意義を十分に理解している管理者は、いつも同行している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で計算できる方は、ご自分でお金を所持している。毎日ビールを2本飲まれるのでお金を、使えるように支援している。コンビニなど外出にも好きな物をえらんで購入される支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が電話をかけてきたり、ズームで面会される。本人の希望がある時は、家族に電話をかける等支援をしている。本人が希望であれば、手紙が書けるように便せんや筆記用具を準備している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や居室の周りに職員が画いた絵画を沢山飾っている。玄関横には、桜の花、木蓮の花、梅の花が咲いて季節感を取り入れている。台所の音や料理の臭い、外の音や鳥の声、天気、風など生活感のある暮らしを工夫している。	門扉を開けると庭の木蓮の樹木が迎えてくれる。共用空間は、中庭向きにスクール方式に置かれたテーブルや椅子、一角には元家族の住職が寄贈された立派な仏壇が設置されている。月参りのお経や法話に入居者、職員共々が安らぎを感じ、対面式厨房からは調理の音や匂いが漂い、あたかも自宅で寛いでいるような居心地の良い場所となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルやソファの位置を配慮し仲の良い方同士で過ごせるように場所づくりを工夫している。カフェ風にコーヒーを飲みながらおしゃべりを楽しまれたり、静かに音楽を聴いたり、居室で一人でランプを楽しまれたりと環境作りを工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の馴染みのものや使い慣れた物を置いて頂き、居心地の良い生活が出来るように工夫している。タンスや鏡台等入所以前に使用していた物を使われている。	ベットやクローゼットが備え付けられ、筆筒や大型テレビを持ち込まれた居室もある。清掃の仕事をしてきた入居者の居室はほうきや塵取りなどが置かれ、夕食後はベット傍のテーブルで晩酌を楽しむなど、職歴や生活習慣に大切にした居室づくりを支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋と分かる目印を置いている。ご自分で立位、座位など出来る物を配置して、転倒防止に努めている。利用者の出来ること、出来ない事を把握して、できる事は手伝って頂き、自立した生活が送れるように工夫している。		